1970年シンガポール金融管理局法

Dr Alexander Ressos, TEP
Attorney-at-Law (Switzerland and Germany),
Solicitor (England & Wales and Hong Kong)
Of Counsel, KGP Legal LLC
alexander.ressos@kgplegal.com.sg
www.ressos.com.sg

立法過程

この法律は1970年に議会に提出されました。同じ会期では銀行法の改革も扱われました。1970年7月22日、ゴー・ケンスイは新たな銀行法案の第二読会を動議しました。この法案は銀行業の免許と規制を定め、1958年のマレーシア銀行条例（Banking Ordinance）とその1965年改正法を廃止するものでした。[1] シンガポール金融管理局法案（Monetary Authority of Singapore Bill）も同じ会期に続きました。国立図書館の記述によれば、ゴーは1970年7月22日にその第一読会のために同法案を提出し、議会は1970年9月2日にこれを可決しました。[2] *BiblioAsia*の記述も同様に、1970年9月の可決を記録しています。[3]

GICの公式史は別の日付を挙げており、議会が同法を1970年12月に承認したとしています。[4] この差は、おそらく可決と施行の違いを反映しています。同法は1970年12月26日に施行され、シンガポール金融管理局（MAS）

© 2026 Dr Alexander Ressos. General information only, not legal, tax or investment advice. No client relationship is created. All Singapore law advice is provided by a duly licensed and regulated firm of Singapore advocates and solicitors only on the basis of an express written letter of engagement. More information at SingaporeIQ.com and ressos.com.sg.

に配属された政府職員は1971年1月1日にその職務に移籍したからです。[5] 金融センターの歴史にとって決定的な日付は、MASが業務を開始した日であり、MAS自身はこれを1971年1月1日としています。[6]

名称の選択

新機関は意図的に「金融管理局（monetary authority）」と名付けられました。その設立を主導し、国際通貨基金（IMF）の技術的助言を得て作成された法案を形づくったゴー・ケンスイは、この機関が通貨を発行しないことから、この名称にこだわりました。[7] ゴーの考えでは、中央銀行とは通貨を創造できる機関でした。MASは準備の運用から銀行の監督に至るまで、中央銀行のその他すべての手段を与えられましたが、紙幣を刷る権限は厳格な裏付け規則に拘束された機関に残されました。

1970年8月にゴーの後任として財務大臣となったホン・スイセンは、議会でこの分離を擁護しました。ホンは、カレンシー・ボードの「自動的な仕組み」は「シンガポールドルへの信認を維持するうえで、心理的に非常に重要」であると論じました。MASが2012年に刊行した記念史は、同じ点をより率直に述べています。その目的は、中央銀行が「気の向くままに自由に紙幣を刷ることはない」と国民に保証することでした。[8] 1971年のIMFミッションは、金融管理局と自律的なカレンシー・ボードの組合せを「興味深い革新」と評しました。[9]

機能とガバナンス

1970年法は、分散していた部局が遂行してきた機能をMASに与えました。MAS自身の概要によれば、同法はシンガポールの金融サービス部門を規制する権限をMASに付与しました。実務上、MASは政府の銀行として行動し、為替管理を運営し、対外準備を保有・運用し、国債を発行し、銀行と金融会社を監督しました。

© 2026 Dr Alexander Ressos. General information only, not legal, tax or investment advice. No client relationship is created. All Singapore law advice is provided by a duly licensed and regulated firm of Singapore advocates and solicitors only on the basis of an express written letter of engagement. More information at SingaporeIQ.com and ressos.com.sg.

ガバナンス構造は政府との緊密な結びつきを反映していました。同法は、財務大臣を議長とする7名の理事会を設けました。[10] ホン・スイセンが1971年1月から1980年7月まで初代議長を務め、キャリア官僚のマイケル・ウォン・パクションが1970年12月から1981年2月まで初代長官（managing director）を務めました。[11] 2003年の改正により、財務大臣以外の大臣がMASの議長を務めることが可能になりました。現行法は、内閣の推薦に基づき大統領が任命する議長と、4名以上13名以下のその他の理事を定めています。[12]

したがってMASは、ドイツ連邦銀行や後の欧州中央銀行が独立していたという意味で独立していたことは一度もありません。MASは政府の政策の手段であり、官僚が職員を務め、閣僚が指揮していました。その信認は、これを統制する政府の規律と、カレンシー・ボードを拘束する規則から生まれていました。このモデルは、本部第II章で述べたシンガポールの政治体制に適合していました。そこでは単一の与党が、相当な継続性をもって長期的な経済目標を追求していたのです。

最初の10年間の準備運用

新設のMASは、準備とともに、それを運用してきた官僚たちも引き継ぎました。為替管理局と海外投資局を統合して形成された投資・為替管理部（Investments and Exchange Control）は、後に国際部（International Department）と改称されました。[13] MASは当初から収益を目的として準備を投資しました。GICの公式史は、このアプローチを当時の金融当局としては「かなり急進的」だったと述べています。MASはスターリングと米ドルからドイツマルク、スイスフラン、日本円への分散を続けました。1971年8月に米国が金の窓口を閉鎖するまで、MASは機会があるたびに米ドルを金に交換しました。その後の1970年代を通じて、MASは金の純買い手であり続けました。[14]

© 2026 Dr Alexander Ressos. General information only, not legal, tax or investment advice. No client relationship is created. All Singapore law advice is provided by a duly licensed and regulated firm of Singapore advocates and solicitors only on the basis of an express written letter of engagement. More information at SingaporeIQ.com and ressos.com.sg.

この体制は、政府が長期投資を金融管理から切り離すことを決めるまで10年間続きました。1980年、ゴー・ケンスイはリー・クアンユー首相の要請を受けて見直しに着手し、その結果、1981年に準備の長期運用が新設のシンガポール政府投資公社（Government of Singapore Investment Corporation）に移管されました。[15] MASは金融政策に必要な公的外貨準備を保持しました。第D部では、GICと、投資の金融管理からの分離を検討します。

保険監督と証券監督の統合

1970年法は、銀行と金融会社に関する責任をMASに与えました。その後の14年間で、MASは金融監督の他の分野を取り込みました。1977年4月、政府は保険業界の規制をMASの所管としました。1984年9月には、1973年証券業法（Securities Industry Act）に基づく規制機能がこれに続きました。[16]

これらの移管により、シンガポールはこのモデルが広まるはるか以前に統合型規制当局を創設しました。2001年のMAS設立30周年に議長として講演したリー・シェンロンは、MASを、金融政策の責任と金融部門全体の監督を兼ね備えた世界で唯一の機関と表現しました。さらに、MASは「これが国際的に流行するはるか以前から統合型の監督機関であった」と付け加えました。[17] 英国が金融サービス機構（Financial Services Authority）を創設したのは1990年代後半になってからであり、スイスがFINMAを組織したのは2009年です。[18] 第E部第I章では、今日の統合型の監督体制を説明します。

よくある誤解

シンガポール金融管理局は、1971年の創設当初からシンガポールの中央銀行であったとしばしば説明されます。しかし最初の31年間、MASは銀行券の発行権を持たない中央銀行であり、発行権は通貨委員会に属していました。2002年10月1日の統合によって初めて、MASは銀行券と硬貨を発行す

© 2026 Dr Alexander Ressos. General information only, not legal, tax or investment advice. No client relationship is created. All Singapore law advice is provided by a duly licensed and regulated firm of Singapore advocates and solicitors only on the basis of an express written letter of engagement. More information at SingaporeIQ.com and ressos.com.sg.

る権限を得て、完全な意味での中央銀行となりました。この区別は創設者たちにとって重要でした。彼らは、通貨の創造を他の金融機能から切り離すことが、シンガポールドルへの信認の保証になると考えていたのです。

注

1. Legal Wires, “Banking Bill”（legal-wires.com）、1970年7月22日の第二読会の討論（Parliament 2, Session 1, Sitting 4）の要約。ゴー・ケンスイが “to provide for the licensing and regulation of the business of banking” 法案を提出し、Banking Ordinance, 1958およびBanking (Amendment and Extension) Act, 1965を廃止。 ↩

2. National Library Board, *Singapore Infopedia*, “Monetary Authority of Singapore”：1970年7月22日、ゴー・ケンスイの動議により第一読会、1970年9月2日に法案可決。 ↩

3. Barbara Quek, “The Making of the Monetary Authority of Singapore”, *BiblioAsia*, 2022年10–12月：Monetary Authority of Singapore Billは1970年9月に議会を通過し、MASは1971年に設立。 ↩

4. GIC, *Bold Vision*, chapter 6, “A Productive Interregnum”（boldvision.gic.com.sg、2026年11月最終閲覧）：MAS法は “was ratified by parliament in December 1970”。 ↩

5. Monetary Authority of Singapore Act 1970（LawPlayerによる現行改訂版、lawplayer.com/sg/act/MASA1970、2026年11月最終閲覧）：“In operation from 26 December 1970”。Section 18(1)：“On 1 January 1971, such persons, as the Minister may decide, who were employed by the Government” がMASの職務に移籍。 ↩

6. Monetary Authority of Singapore, “Our History”（mas.gov.sg、2026年11月最終閲覧）：議会は1970年にMonetary Authority of Singapore Actを可決し、MASに “authority to regulate the financial services sector in Singapore” を付与。MASは1971年1月1日に発足。 ↩

© 2026 Dr Alexander Ressos. General information only, not legal, tax or investment advice. No client relationship is created. All Singapore law advice is provided by a duly licensed and regulated firm of Singapore advocates and solicitors only on the basis of an express written letter of engagement. More information at SingaporeIQ.com and ressos.com.sg.

7. GIC, *Bold Vision*, chapter 6（2026年11月最終閲覧）：ゴー・ケンスイがMASの設立を主導。IMFが技術的助言と法案草案を提供。ゴーは、この機関が通貨を発行しないことから、意図的に “monetary authority” と命名。 ↩

8. Barbara Quek, “The Making of the Monetary Authority of Singapore”, *BiblioAsia*, 2022年10–12月、Ignatius Low, Fiona Chan and Gabriel Chan, *Sustaining Stability: Serving Singapore*, Singapore, Straits Times Press, 2012を引用：中央銀行は “would not freely print money according to its whim”。あわせてBarbara Quek, “The Making of the Monetary Authority of Singapore”, *BiblioAsia*, 2022年10–12月、ホン・スイセンの引用：カレンシー・ボードの “automatic mechanism” は “of great psychological importance in maintaining confidence in the Singapore dollar”。Wikipedia, “Hon Sui Sen”（2026年11月最終閲覧）：1970年8月11日から1983年10月14日まで財務大臣。 ↩

9. GIC, *Bold Vision*, chapter 6（2026年11月最終閲覧）：1971年のIMFミッションはこの仕組みを “an interesting innovation” と評した。 ↩

10. GIC, *Bold Vision*, chapter 6（2026年11月最終閲覧）：MAS法は財務大臣を議長とする7名の理事会を設置。2003年の改正により、いずれの大臣もMASの議長を務めることが可能に。 ↩

11. Monetary Authority of Singapore, “Our History”（2026年11月最終閲覧）：歴代の議長および長官。ホン・スイセン（1971年1月〜1980年7月）、マイケル・ウォン・パクション（1970年12月〜1981年2月）を含む。 ↩

12. Monetary Authority of Singapore Act 1970（LawPlayerによる現行改訂版、lawplayer.com/sg/act/MASA1970、2026年11月最終閲覧）、Section 7(1)および(3)：理事会は “responsible for the policy and general administration of the affairs and business of the Authority”。内閣の推薦に基づき大統領が任命する議長、および “not less than 4 and not more than 13 other directors”。 ↩

© 2026 Dr Alexander Ressos. General information only, not legal, tax or investment advice. No client relationship is created. All Singapore law advice is provided by a duly licensed and regulated firm of Singapore advocates and solicitors only on the basis of an express written letter of engagement. More information at SingaporeIQ.com and ressos.com.sg.

13. GIC, *Bold Vision*, chapter 6（2026年11月最終閲覧）：準備担当部門は当初Investments and Exchange Controlと呼ばれ、為替管理局（Department of Exchange Control）と海外投資局（Department of Overseas Investment）の統合によるもので、後にInternational Departmentとなった。 ↩

14. GIC, *Bold Vision*, chapter 6（2026年11月最終閲覧）：MASは当初から投資アプローチにおいて “pretty radical” であった。ドイツマルク、スイスフラン、日本円の保有を拡大。“Up to the closing of the gold window in August 1971, MAS was constantly alert to opportunities to redeem its US dollars for gold”。“MAS was a net buyer of gold through the 1970s”。1971年にスターリング協定が2年間延長された後、英国は “eventually” 最低スターリング保有比率を36%に引き下げることに同意。 ↩

15. GIC, *Bold Vision*, chapter 6（2026年11月最終閲覧）：1980年、ゴーはリー・クアンユーの要請によりMASの見直しに着手し、その結果GICがMASから準備運用を引き継いだ。GIC, *Bold Vision*, chapter 3：GICは1981年に設立。 ↩

16. Monetary Authority of Singapore, “Our History”（2026年11月最終閲覧）：1977年4月に保険業界の規制をMASの所管とし、1984年9月にSecurities Industry Act（1973年）に基づく規制機能をMASに移管。 ↩

17. Lee Hsien Loong, “Credibility, confidence, dynamism: MAS in the new economic and financial landscape”、MAS 30th Anniversary Conferenceにおける講演、2001年7月20日、*BIS Review* 67/2001、1–2頁：MASは “is the only institution in the world that combines responsibility for monetary policy with supervisory oversight of the entire financial sector”。“MAS was an integrated supervisor long before this became internationally fashionable”。1977年から保険、1984年から証券を監督。 ↩

18. Wikipedia, “Financial Services Authority”（2026年11月最終閲覧）：Securities and Investments Boardは1997年10月28日にFinancial Services Authorityに改称。Financial Services and Markets Act 2000は2001年12月1

© 2026 Dr Alexander Ressos. General information only, not legal, tax or investment advice. No client relationship is created. All Singapore law advice is provided by a duly licensed and regulated firm of Singapore advocates and solicitors only on the basis of an express written letter of engagement. More information at SingaporeIQ.com and ressos.com.sg.

日に施行。FINMAについては、前掲のジュネーブ巻に関する注を参照。 ↩

Disclaimer

This article is provided for general information only. It is based on publicly available sources as at its date of publication. These sources have not been independently verified against licences, regulatory registers or the records of the entities concerned. It is not legal, tax, financial or investment advice. Nor is it a recommendation to invest in, transact with or use the services of any entity mentioned. Law and regulation change frequently, so the content may be incomplete or outdated. To the fullest extent permitted by law, Dr Alexander Ressos and the publisher of SingaporeIQ exclude all liability for loss or damage arising from the use of or reliance on this article. Readers should obtain advice on their specific circumstances before acting or refraining from action.

Names and trademarks of the entities discussed belong to their owners and are used for identification only. Their mention implies no endorsement, affiliation or allegation of wrongdoing. All Singapore law advice is provided by a duly licensed and regulated firm of Singapore advocates and solicitors only on the basis of an express written letter of engagement. Corrections and updates: contact@ressos.com.

© 2026 Dr Alexander Ressos. This article may be quoted with attribution to SingaporeIQ (SingaporeIQ.com). Reproduction in full and any commercial use require prior written consent. The Legal Terms at https://singaporeiq.com/legal-terms apply.

Author contact: Dr Alexander Ressos, TEP · contact@ressos.com

© 2026 Dr Alexander Ressos. General information only, not legal, tax or investment advice. No client relationship is created. All Singapore law advice is provided by a duly licensed and regulated firm of Singapore advocates and solicitors only on the basis of an express written letter of engagement. More information at SingaporeIQ.com and ressos.com.sg.